

市民会館の在り方検討報告書

令和 8 年 3 月

安 城 市

目次

1. はじめに	1
1) 検討の背景と目的	1
2) 文化芸術を取り巻く動き	2
3) 上位関連計画	3
2. 劇場・ホールの状況とすみ分けの整理	4
1) 市内ホール施設の状況	4
2) 近隣市町のホール施設の状況	5
3. 利用状況調査	8
4. 市民会館の課題等の整理	13
1) 施設設備の現況調査	13
2) 利用団体ヒアリング	14
3) 利用団体アンケート	19
4) プロモーター等ヒアリング	28
5. 求められる市民会館の在り方	30
1) 各種調査の整理	30
2) 求められる役割	31
3) 求められるホール規模と機能	32
4) 管理運営の考え方	34
6. 整備手法	35
1) 整備手法(改修、建替え)の考え方	35
2) 整備手法の比較	36
7. 施設立地の特性	38

1. はじめに

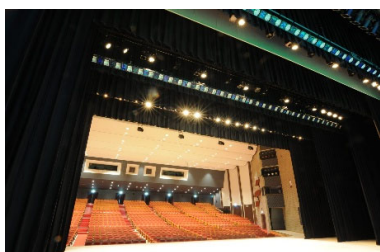
1) 検討の背景と目的

安城市民会館（以下「市民会館」という。）は、昭和47年に「文化の殿堂」として建設され、築53年を経過しています。平成26年度にホール天井を含む大規模な改修を行ったものの、その後は大きな改修や更新が行われておらず、老朽化が進行しています。文化振興の役割を果たしてきた一方で、時代の変化に伴い多様化する利用者ニーズへの対応が難しくなっているほか、ホールの舞台関係設備の劣化などの問題が顕在化しています。

「生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）（令和8年3月策定）」においては、「利用者の安全と快適さを確保するとともに、市民会館等老朽化した施設の整備を含めた今後の在り方を含めた有効な活用方法の検討」の必要性が明記されています。さらに、令和6年度から庁舎整備の検討を進めており、市民会館は駐車場を介して隣り合う位置に立地していることから、この機会に市民会館の在り方を検討する必要があります。

本報告書は、市民会館の現状と課題を整理し、今後の施設整備の方向性を検討する上での基礎資料として取りまとめています。

所在地	桜町18番28号
用途地域	近隣商業地域
敷地面積	11,154 m ² ※建築確認申請より
延床面積	6,667.97 m ²
建設年度(築年数)	昭和47年(53年)
構造	RC造3階建て(一部鉄骨)
機能	ホール、楽屋、リハーサル室、展示室、会議室、和室、レストラン 等



サルビアホール



展示室



大会議室

2) 文化芸術を取り巻く動き

①「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の制定

「文化芸術振興基本法（平成13年法律第148号）」の基本理念にのっとり制定された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年法律第49号）」では、劇場、音楽堂等の活性化を図ることにより、我が国の実演芸術の水準の向上等を通じて実演芸術の振興を推進する、劇場、音楽堂等の事業、関係者並びに国及び地方公共団体の役割等が示されています。

②「文化芸術基本法」の改正と「文化芸術推進基本計画」の策定

「文化芸術振興基本法」は、平成29年に「文化芸術基本法」に改正され、文化芸術政策を充実させるとともに、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業などの関連分野を施策の範囲に取り込みました。また、文化芸術が生み出す多様な価値を継承・発展・創造に活かす重要性が示されています。

この法律に基づき、「文化芸術推進基本計画（第1期）（平成30年3月）」と「文化芸術推進基本計画（第2期）（令和5年3月）」が策定されました。第2期計画では、第1期計画の目標を踏襲しつつ、「文化芸術と経済の好循環」による心豊かで活力ある社会の実現をめざすものとしています。

③「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の制定

障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を目的として、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（平成30年法律第47号）」が制定されました。

④「あいち文化芸術振興計画」の策定

愛知県では、文化芸術を県民生活の中に根付かせ、その多様な価値を活かした地域づくりを進めるため、「あいち文化芸術振興計画（令和4年12月）」を策定しています。この計画は、国の「文化芸術基本法」や「文化芸術推進基本計画」の趣旨を踏まえ、文化芸術の振興を通じた創造性あふれる地域社会の形成、担い手の育成、文化芸術を活用した交流や地域活性化の推進などを基本的な方向性として示しています。

また、県民一人ひとりが文化芸術に親しみ、参加・享受できる環境づくりを進めるとともに、障害者や子どもを含む多様な主体の文化芸術活動を支援することにより、文化芸術が持続的に発展する社会の実現をめざしています。

3) 上位関連計画

・第9次安城市総合計画(令和6年3月)

目指す都市像:ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 安城

重点戦略:子どもを育む優しいしくみ・子どもを育む確かなちから・子どもを育む安らぎのばしょ

・第三次安城市都市計画マスタープラン(令和6年4月改定)

上位計画である第9次安城市総合計画では、安心して子どもを育てることのできる仕組みをつくり、市民の豊かな暮らしと地域の未来を支える確かな力を蓄え、安心・安全で誰もが住みたくなる魅力あふれるまちづくりを進めることにより、都市像の実現を目指す

都市づくりの目標:みんなでまちをつくる!都市機能が便利に使える集約型都市づくり

みんなでまちをつかう!市民とともに育む持続可能な都市づくり

みんなで活きる力をつくる!活力と活気で賑わいあふれる都市づくり

みんなで安心をつくる!安全・安心に暮らせる都市づくり

みんなで心地よさをつくる!人と自然が共生する都市づくり

・安城市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改定)

施設の集約・複合化・多機能化によりコスト最適化。ライフサイクルコスト観点で改修・更新を検討。

基本方針1「安全性の確保と長寿命化の推進」

基本方針2「資産保有量の最適化」

基本方針3「持続的な施設運営のための財源確保」

・安城市文化振興計画(令和8年3月改定)

基本理念:文化芸術活動に市民が主体的に参加することで、心の豊かさと幸せを実感できるまち

基本方針1 文化芸術を「人と人を結ぶ架け橋」とするために、

誰もが文化芸術に親しめる機会をつくる

基本方針2 地域に根ざす文化芸術で、「シビックプライド」を育む

基本方針3 持続性のある文化芸術の基盤をつくる

・安城市生涯学習推進計画(生涯学習・スポーツ)(令和8年3月)

基本理念:学びとスポーツで輝き、つながり、支え合い、元気になるまち

基本目標:I.人づくり ~学び・スポーツに自ら関わる人を増やし、育てる~

II.つながりづくり ~学び・スポーツを通じて地域を盛り上げ、絆を深める~

III.環境づくり ~学び・スポーツを誰もが楽しめる仕組みを作り、広める~

2. 劇場・ホールの状況とすみ分けの整理

1) 市内ホール施設の状況

市民会館のサルビアホールは1,200席の客席を備える、市内最大規模のホールです。プロのアーティストによるコンサートのほか、学校や文化団体による発表の場として広く利用されています。近接する安城市文化センター（中央公民館）（以下「文化センター」という。）には、502席の客席を備えるホールがあり、各種団体による集会や説明会のほか、演奏会や演劇等の会場として利用されています。

また、300席以下のホールとして、安城市中心市街地拠点施設（アンフォーレ）（以下「アンフォーレ」という。）、安城市昭林公民館（以下「昭林公民館」という。）があり、いずれも小規模なイベント会場として市民に親しまれています。

表 市内ホール施設の状況

No.	施設名称	開館年	ホール名	ホールタイプ	ホール客席数		
					①1,000席以上	②500席以上	③500席未満
1	市民会館	昭和47年	サルビアホール	多目的／固定席	1,200席	—	—
2	文化センター	昭和56年	マツバホール	多目的／固定席	—	502席	—
3	アンフォーレ	平成29年	ホール	多目的／平土間（移動観覧席）	—	—	255席
4	昭林公民館	平成8年	ホール	多目的／固定席	—	—	159席

図 市内ホール施設位置



2) 近隣市町のホール施設の状況

近隣市町においては、1,000席前後の多目的ホールが整備されており、刈谷市及び豊田市には1,500～1,700席規模の大型のホールが設けられています。全12施設のうち6施設は大ホールと小ホールを備えており、大規模公演から市民活動まで、様々な用途に対応できる施設構成となっています。

また、碧南市芸術文化ホール、岡崎市シビックセンター、豊田市コンサートホールには、音楽専用ホール（シューボックス型）が整備されており、生音による音楽公演に特化した環境が整えられています。

図 近隣市町のホール施設位置図

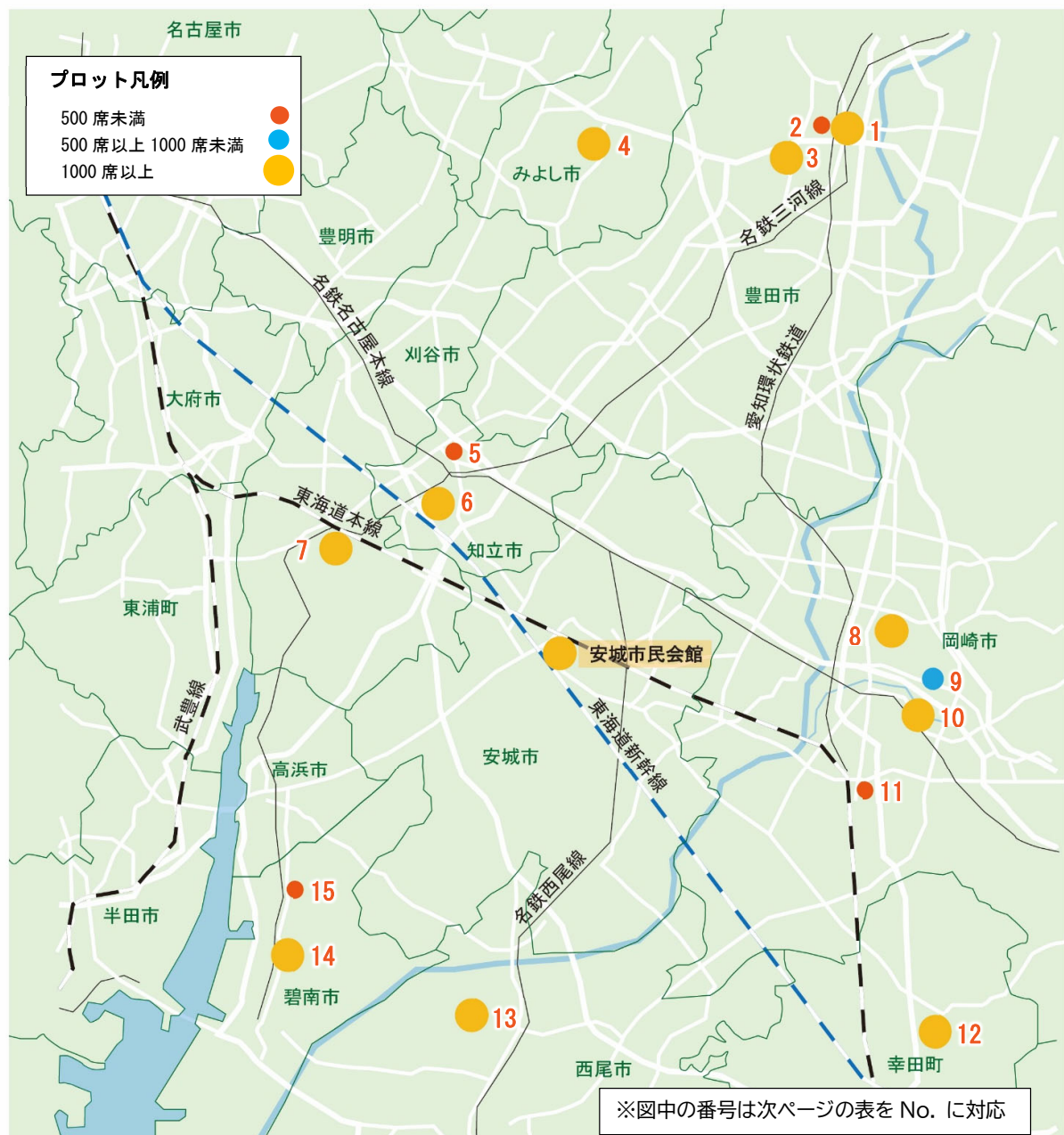


表 近隣市町のホール施設の設置状況(※北から順に掲載)

No.	施設名称	開館年	ホール名	ホール タイプ	ホール客席数			名古屋 駅から の直線 距離	最寄り 駅から の 時間・直 線距離
					① 1,000 席以上	② 500 席 以上	③ 500 席 未満		
1	豊田市コンサートホール・能楽堂	平成10年	コンサートホール	音楽専用 ／固定席 (シューボックス)	1,010 席	—	—	約27km	名鉄 豊田市駅 徒歩5分 約130m
			能楽堂	能楽堂／ 固定席	—	—	461席		
2	豊田産業文化センター	昭和60年	小ホール	多目的／ 固定席	—	—	240 席	約26km	愛環 新豊田駅 徒歩4分 約200m
3	豊田市民文化会館	昭和56年	大ホール	多目的／ 固定席	1,716 席	—	—	約26km	名鉄 豊田市駅 徒歩15分 約950m
			小ホール	多目的／ 固定席	—	—	450席		
4	みよし市勤労文化会館 ※R2～R3改修	平成5年	大ホール	多目的／ 固定席	1,033 席	—	—	約21km	名鉄 土橋駅 徒歩1 時 間以上 約5km
			小ホール	多目的／ 固定席	—	—	421 席		
5	知立リリオ・コンサートホール	平成10年	コンサートホール	音楽専用 ／固定席	—	—	284 席	約23km	名鉄 知立駅 徒歩4分 約340m
6	知立市文化会館	平成12年	かきつばたホール	多目的／ 固定席	1,004 席	—	—	約24km	名鉄 知立駅 徒歩20分 約1km
			花しょうぶホール	多目的／ 平土間	—	—	293 席		
7	刈谷市総合文化センター	平成22年	大ホール	多目的／ 固定席	1,541 席	—	—	約23km	JR・名鉄 刈谷駅 徒歩3分 約240m
			小ホール	多目的／ 平土間 (移動観 覧席)	—	—	282 席		

No.	施設名称	開館年	ホール名	ホール タイプ	ホール客席数			名古屋 駅から の直線 距離	最寄り 駅から の 時間・直 線距離
					① 1,000 席以上	② 500 席 以上	③ 500 席 未満		
8	岡崎市民会館 ※H27～H28改修	昭和42年	あおい ホール	多目的／ 固定席	1,100席	—	—	約35km	名鉄 東岡崎駅 徒歩20分 約1km
			甲山会館	多目的／ 平土間 (移動観 覧席)	—	—	300 席		
9	岡崎市せきれい ホール ※R1改修	昭和59年	せきれい ホール	多目的／ 固定席	—	500 席	—	約36km	名鉄 東岡崎駅 徒歩20分 約860m
10	岡崎市 竜美丘会館 ※R8.12より利 用停止	昭和55年	ホール	多目的／ 平土間＋ 固定席	1,008席	—	—	約37km	名鉄 東岡崎駅 徒歩15分 約980m
11	岡崎市シビック センター ※R6～R8改修	平成14年	コンサ ートホ ール (コロ ネット)	音楽専用 ／固定席 (シュー ボックス)	—	—	425席	約37km	JR 岡崎駅 徒歩7分 約650m
12	幸田町民会館	平成8年	あじさい ホール	多目的／ 平土間			216席	約43km	JR 幸田駅 徒歩30分 約2km
			さくら ホール	多目的／ 固定席	1,010席	—	—		
			つばき ホール	多目的／ 固定席	—	—	404席		
13	西尾市 文化会館 ※R7改修	昭和55年	大ホール	多目的／ 固定席	1,111席	—	—	約37km	名鉄 西尾駅 徒歩20分 約1km
			小ホール	多目的／ 固定席	—	—	356席		
14	碧南市 文化会館	昭和54年	ホール	多目的／ 固定席	1,021 席	—	—	約34km	名鉄碧南 中央駅 徒歩10分 約750m
15	碧南市 芸術文化ホール	平成5年	エメラル ドホール	音楽専用 ／固定席 (シュー ボックス)	—	—	452席	約31km	名鉄 北新川駅 徒歩5分 約340m
			シアター サウス	多目的／ 平土間 (移動観 覧席)	—	—	256席		

※ホール客席数は車椅子席を含んでいます。

3. 利用状況調査

市内文化施設の利用状況を把握するため、令和4年度～令和6年度（3か年）の「稼働率」や「利用ジャンル」、「利用者ジャンル」等を整理しました。

①調査対象

- ・ 市民会館
- ・ 文化センター

②調査期間

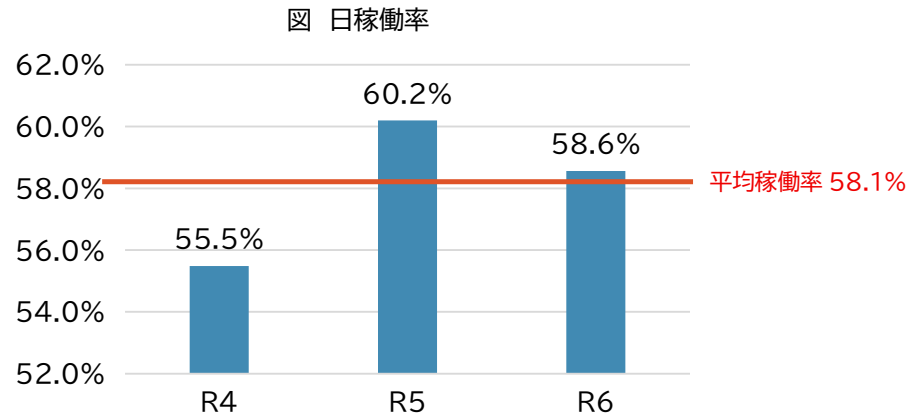
令和4年4月1日～令和7年3月31日

◇調査結果

①市民会館

【稼働率】

「令和6年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書(全国公立文化施設協会)」によると、市・特別区(30万人未満)における最大ホールの平均日稼働率は「56.5%」、最大ホールが1,000席以上の場合の平均日稼働率は「58.1%」であることから、全国平均値で推移していることが分かります。

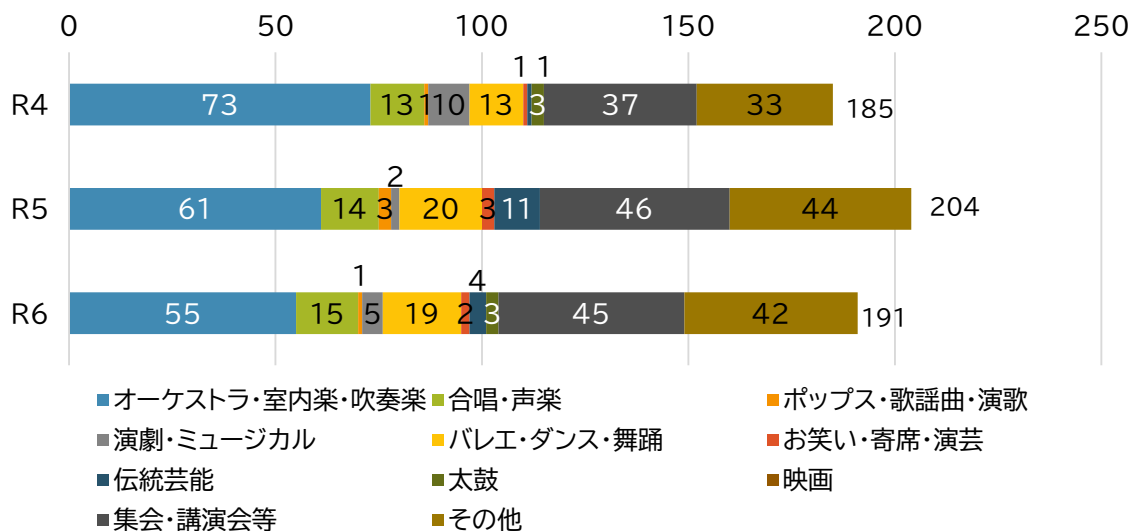


【利用ジャンル別】

利用のあったジャンルについては、「オーケストラ・室内楽・吹奏楽」が最も多い結果となりました。次いで、「集会・講演会等」が2番目に多く、各種団体や民間企業等の説明会や講習会の利用がみられました。

また、「その他」には、幼稚園や学校の「発表会」や「芸術鑑賞会」などが含まれます。

図 利用ジャンル別回数

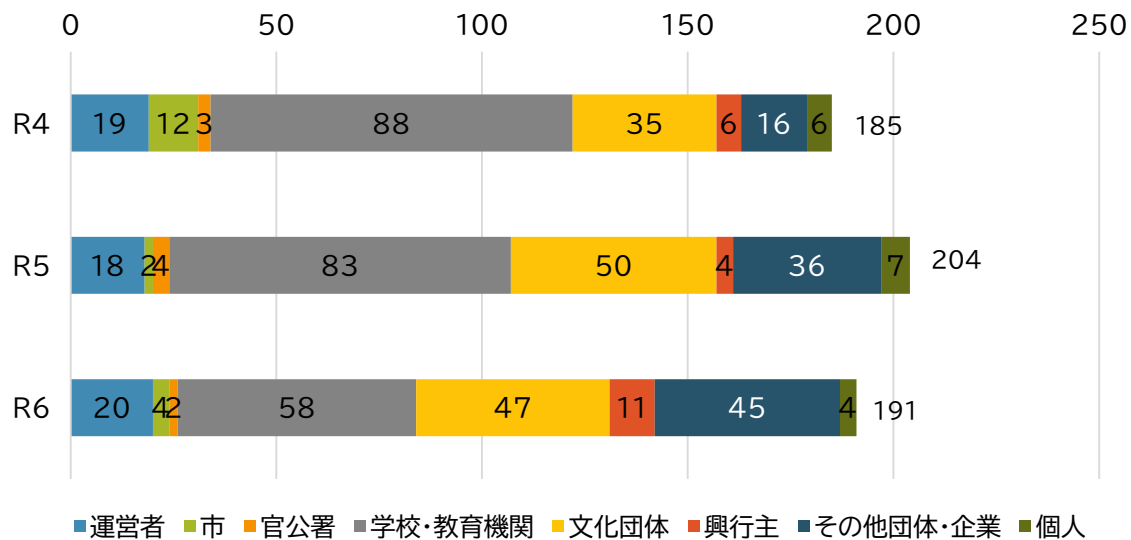


【利用者別】

利用者ジャンル別に分析すると、「学校・教育機関」、「文化団体」、「その他団体・企業」による利用が大半を占め、「興行主」による利用は年間4～11件となっています。このことから、市民会館は市民利用・地元利用が多いことが分かります。

また、運営者（指定管理者）による利用は、年間20件程度となっています。

図 利用者ジャンル別回数

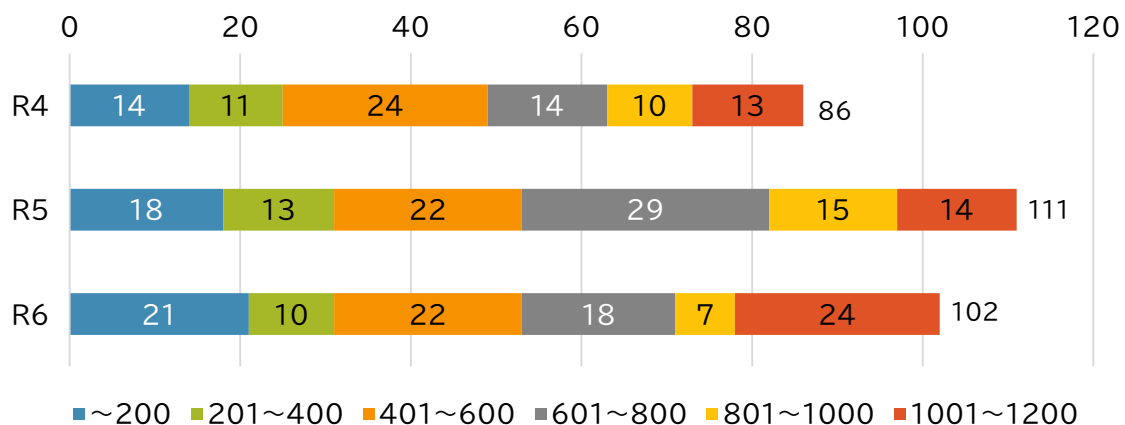


【利用人数】

満席に近い「1,001～1,200人」は年間13～24件となっています。一方、「601人以上」の利用が全体の50%前後を占めており、文化センターの客席数である502席を超える利用の需要が伺えます。また、令和6年度は「興行主」や「その他団体・企業」等の利用が増えたことから、「1,001～1,200人」での利用が例年より増加しています。

※利用人数が不明の利用は集計から除外しています。

図 利用人数別回数(本番利用のみ)



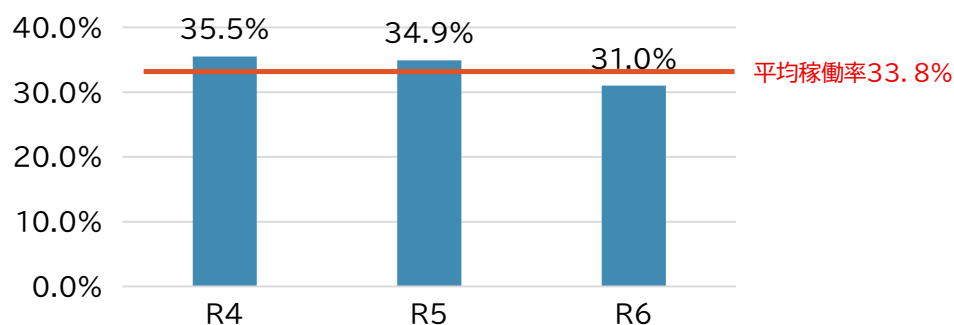
②文化センター

【稼働率】

「令和6年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書(全国公立文化施設協会)」によると、最大ホールが500席以上の平均日稼働率は「54.7%」であることから、全国平均値を下回っている状況です。

文化センターの稼働率が市民会館と比べて低い要因の一つとして、社会教育法(昭和24年法律第207号)第23条により営利、宗教、政治目的での利用が制限されていることが考えられます。

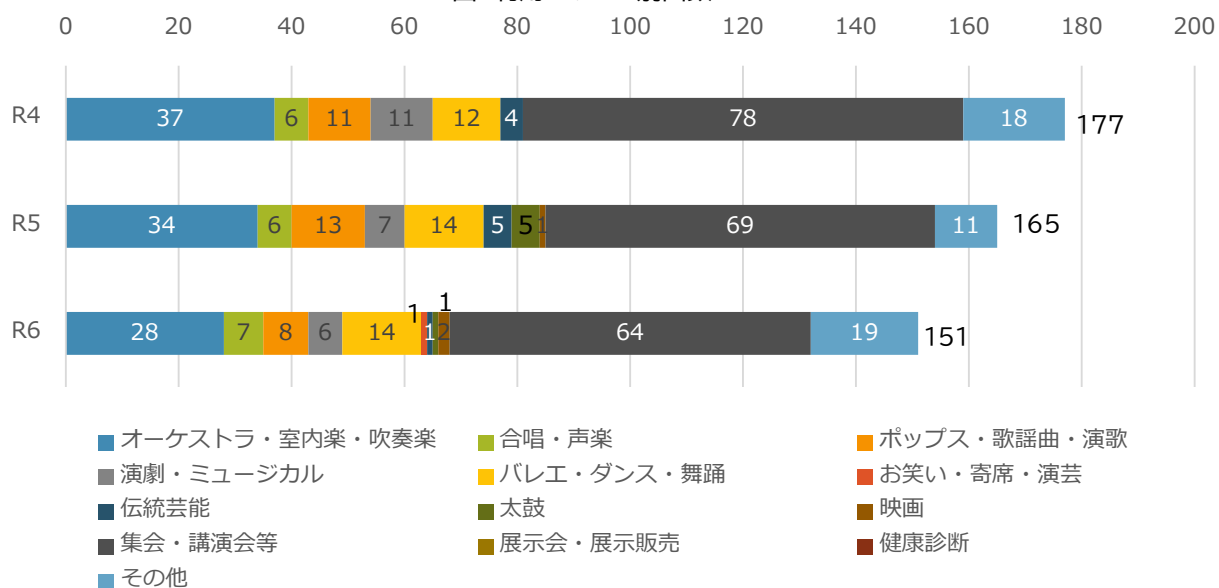
図 日稼働率



【利用ジャンル別】

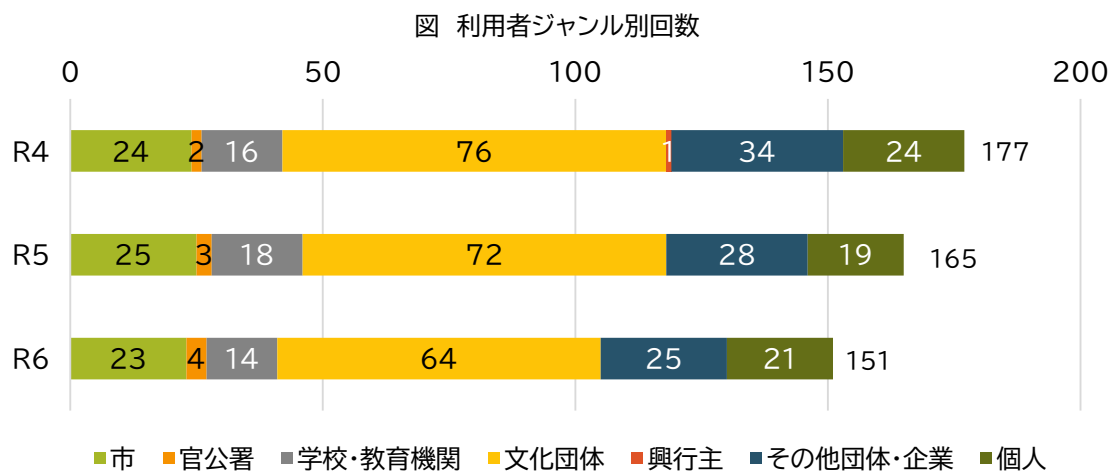
利用のあったジャンルについては、「集会・講演会等」が最も多く、次いで「オーケストラ・室内楽・吹奏楽」が多くなっています。「集会・講演会等」には、文化団体や企業の表彰式、総会、説明会などが含まれます。

図 利用ジャンル別回数



【利用者別】

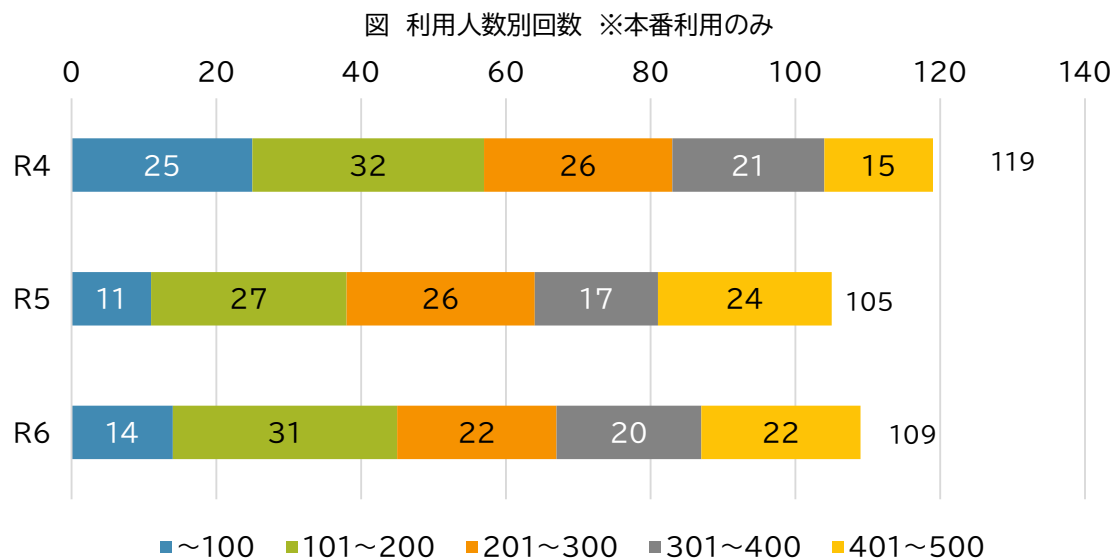
利用者ジャンルについては、「文化団体」が最も多く、発表・公演利用の場として定期的に利用されていることが分かります。



【利用人数】

いずれの年度も「101～200人」が最も多い結果となっていますが、「～100人」から「401～500人」にかけて特定の利用人数に偏ることなく利用されている状況です。

※利用人数が不明の利用は集計から除外しています。



4. 市民会館の課題等の整理

1) 施設設備の現況調査

現地確認と運営者ヒアリングを行い、建築・設備・運営面における現状の問題点を整理しました。

項目	内容
施設(全般)	・ホールやバックヤード、会議棟との渡り廊下等に雨漏りが数か所ある。 ・外壁が劣化しており、クラックや浮き、汚れがある。 ・授乳室や親子室など利用者ニーズに応じた諸室が未設置である。 ・駐車場が混雑している。
ホール及び 関連諸室	【ホール】 ・ホールの防音性能が低く、ホール外部に音漏れが発生している。 ・客席の椅子の幅が狭い。 ・オーケストラピットの利用頻度は少ない。 ・オーケストラピットを利用する際、外した椅子を舞台袖に人力で移動させており、手間である。 ・舞台下手袖のスプリンクラー開放弁がむき出しになっており、大道具等との接触のおそれがある。 ・舞台袖にある空調の音が大きく、演目によって影響がある。 【舞台、楽屋、リハーサル室】 ・楽屋は1階と2階に配置されているが、バックヤードにはエレベーターがないため、移動が階段となり、不便である。 ・楽屋からホールやホワイエへの動線に段差があるなど、一部バリアフリーが未対応である。 ・楽屋は和室が多く使いにくい。また、利用者によっては適さないケースがある。 ・楽屋のトイレが少ない。 ・楽屋応接室は外から見えるほか、楽屋口から近いため、演者のプライバシー保護に支障がある。 ・リハーサル室の防音性能が低い。 ・リハーサル室が舞台と同じサイズではなく不便である。
玄関・ホワイエ	・イベントがある際に、開館前の待機場所が屋外にしかない。(屋内に待機場所が必要である。) ・洋式の客用トイレが少なく、イベント時に混雑する。
設備	・ホール棟全体における空調設備の不具合が生じている。 ・ぶどう棚や照明、バトン等の舞台吊物設備等が経年劣化が生じている。
その他	・ピアノ庫のシャッターの調子が悪く、湿度管理機能が無い。 ・ピンスポット室とホールの間にガラスがないため音漏れ等の問題があるほか、動線は階段のみで器具の持ち込みに苦慮している。 ・搬出入口までの道路が狭く、大型搬入車両が移動しづらい。出待ちの際の事故も懸念される。 ・展示室は狭く、中央部に柱があるため使い勝手が悪い。 ・会議棟の多目的トイレが2階に設置されており、不便である。

2) 利用団体ヒアリング

市内のホールを継続的に利用している団体等計30団体にヒアリングを依頼し、そのうち10団体（音楽5、演劇3、伝統芸能1、その他1）に協力していただきました。

調査期間

令和7年9月17日、18日、24日、25日

◇調査結果

◇日常的な活動の場所について、困っていること

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	・市内に打楽器など大きな音が出せる練習場所が無い。 ・楽器を保管できる場所が無い。 ・桜井公民館は場所が狭く、2階に練習部屋があるため、大型楽器の運搬に困っている。 ・市民会館で練習しているが、音響が良くない。音響の設備が整った大きなホールで練習するのが望ましい。 ・豊田市や刈谷市には、舞台上で練習できるホールがあるが、予約が取りづらく、費用も高いため、市内にも練習場所がほしい。
演劇団体	・公民館は早く閉まってしまうため、仕事終わりに練習する時間が十分に確保できない。 ・時代劇(殺陣)などの通し稽古ができる、天井の高い練習場所が無い。
伝統芸能団体	・普段は地元の町内会にある練習場を使っている。
その他展示系など	・防音完備でないため、太鼓で大きな音が出せない。 ・琴や絵画の活動で公民館の部屋を利用している。

◇発表・公演の場所について、困っていること

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	・市内のホールはすべて多目的で中途半端なものが多く、音楽に特化したホールがない。 【文化センター】 ・響きが悪く舞台が狭い。 ・楽屋が少ない。 ・階段が多く、子どもに楽器を運ばせるのが怖い。 ・車椅子の来場者の方に不便があった。バリアフリー面で十分な対応ができておらず、困っている。 ・駐車場が狭く、混雑している。 【アンフォーレ】 ・舞台袖が無く、音響が悪い。 ・予約が取りづらい。 ・駐車場が狭くて停めにくい。
演劇団体	・舞台が狭く舞台幕裏に通路が無いいため、下手袖から上手袖に移動もできない。 ・文化センターは舞台袖が狭く、下手に待機する場所が十分でない。 ・昭林公民館やアンフォーレは、規模は丁度良いが舞台袖が無いいため用途が限られる。
伝統芸能団体	・文化センターは楽屋が少ないので、会議室を楽屋代わりに使用している。もう少し楽屋があると良い。
その他展示系など	・文化センターの駐車場は区画数が少なく、配置も悪い。

◇市民会館の良い点・悪い点

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	【ホール機能について】 ・舞台サイズは標準的な大きさで使いやすい方であるが、舞台上手袖はもう少し広いと良い。 ・音響が良くないため、生音演奏に向いていない。 ・客席数(1,200席)が大きすぎるため音楽団体にとっては集客が難しい。 ・舞台袖の広さが上手と下手で異なり使い勝手が悪い。 ・舞台袖が狭く、大型楽器が置けない。 ・ホールの空調の効きが悪い。 【その他諸室について】 ・リハーサル室を単独で利用したくても、ホールが使われていると借りられない。 ・リハーサル室が2階にあり、エレベーターも狭いため、打楽器等の大きな楽器の運搬ができない。 ・防音性能が低いいため、リハーサル室で音出しができない。また、天井が低く音が響きすぎてしまう。 ・和室の楽屋は靴を脱ぐ必要があり不便。洋室が望ましい。 ・開場前の待機場所が屋外である。空調の効くところで待つのが望ましい。

団体ジャンル	主な意見
音楽団体つづき	・トイレは和式と洋式両方が設置されているが、洋式に偏る傾向があり、混雑する。 【運営面について】 ・付帯備品の料金が安い。 ・喫茶店が早めに閉まってしまう。 【駐車場について】 ・立地が安城駅から少し遠く、駐車場も少ない。 ・市民会館の駐車場は広いが市役所と共同であるため、足りない場合がある。 ・駐車場にバスが停められない。
演劇団体	・ホールは客席数が多く、舞台サイズも大きいので、演劇団体には向いていない。 ・会議室は大きな声が出せないで、練習場所としても借りにくい。
伝統芸能団体	・客席数が多すぎる。こじんまりした空間の方がお客さんに間近で見てもらえる。 ・トイレが混雑する。

◇市民会館に適したホール客席数、新たに追加すべき機能

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	【ホール機能について】 ・固定席(段床型)で、音響の良いホールが良い。 ・子どものためにも音楽専用のコンサートホールが良い。 ・舞台袖が舞台と同じくらいの広さがあると良い。 ・椅子の幅にゆとりを持たせ、親子室や車椅子席を設けたい。 ・1階席と2階席を区分して利用人数に応じて 1 階席のみでの利用ができるとう良い。 【ホール客席数について】 ・1,000席規模が良い。 ・1,500～2,000席が良い。 ・音響設備や備品が整った1,200～1,500席の大ホールと、市民が使いやすく、質の高い小ホールが備わっていると良い。 ・200～300席規模が良い。 ・舞台袖がしっかりあり、音響が良ければ300席規模がちょうど良い。 【その他諸室について】 ・防音で天井が高く、楽器の搬入が容易なりハーサル室がほしい。 ・舞台と同じ大きさのリハーサル室があると良い。 ・バンドや吹奏楽が練習できて、楽器が常設されているか、又は保管できる部屋がほしい。 ・打楽器が常設されていると、子どもたちも身近に使用できて良い。 ・パート練習等ができる部屋が大小あると良い。 ・日常的な練習場所や居場所となる部屋・スペースがあると良い。 ・小さなリハーサル室や展示スペースを充実させたい。 ・楽屋は洋室の方が使いやすいが、着替えのスペースは必要。

団体ジャンル	主な意見
音楽団体つづき	【その他】 ・練習後の打合せで利用したり、公演前後に立ち寄れたりするカフェ・飲食スペースがあると便利。 ・駅前かつ新幹線が止まる駅(三河安城駅)が良く、市民だけでなく名古屋や岡崎からも集客できるよう他と差別化した立地が良い。 ・駅直結が一番理想であるが、駅から5～15分の立地でも問題ない。 ・駐車場が隣接しているのが良い。
演劇団体	・200～300席で設備が整った小ホールがほしい。 ・現状と同等規模のホールは必要。加えて50人規模の演劇ができる小劇場がほしい。 ・防音のスタジオや、リハーサルで立ち稽古ができる小ホールがほしい。 ・子どもが気軽に利用できるスタジオ等、日常的に集える場所がほしい。 ・気楽に公演ができる部屋や畳の部屋があると良い。 ・衣装や小道具など荷物が多いので、練習場にロッカーがほしい。
伝統芸能団体	・100～150席の小ホールが併設されていると良い。 ・市民ギャラリーがあると展示会ができるため人が集まりやすくなる。 ・建物や周りの雰囲気が良くなってほしい。公園等があると良い。 ・楽屋が洋室になった場合でも、利用上の不便はない。 ・駐車場が多ければ、駅から少し離れていても良い。
その他展示系など	・大ホール、小ホール、会議室等を兼ね備えた総合的な施設がほしい。 ・芸能発表においては500席規模がちょうど良い。 ・高校生が屋外で気軽にライブができるようなスペースがほしい。 ・新築であれば郊外で、市民が訪れやすい場所が良い。 ・駐車場の広さを確保してほしい。 ・高齢化に対応してエレベーターがほしい。

◇市民会館に求める役割・市に求める文化施策

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	【市民会館に求める役割】 ・市民会館には、市全体の中心地であり発信・育成の場であってほしい。 ・文化育成の旗振り役になってほしい。 【市に求める文化施策】 ・部活動が減少していて子どもの発表の場が無くなっているため、新たなホールでその代わりとなる活動ができると良い。 ・子どもたちがプロの演奏に触れる機会が無い。無料のコンサートはあってもいいが、文化を育てるという視点では、「チケットを購入して聴きに行く」という習慣をつけてほしい。 ・様々な施設を、文化面で支援・援助できる部門が必要。文化的に盛り上がる運営方法を考え、全体を引っ張る力になってほしい。 ・市や市民会館の主催でイベントを企画・開催できると良い。 ・事業をコーディネートしてくれる組織が、市にあってほしい。 ・市内に音楽を楽しむ場が少ない印象。 ・まちづくりを考えた時に、無料エリアにピアノが置いてあり、ロビーコンサートなどができる文化的なまちになると思う。 ・オペラ等一流の団体を呼べる環境が必要。
演劇団体	【市民会館に求める役割】 ・仕事終わりに練習できるよう、利用時間に幅があると良い。 【市に求める文化施策】 ・いろいろなものをサポートできるコンシェルジュのような集約した窓口や、問合せ、紹介に対応してくれる機関がほしい。
その他展示系など	【市民会館に求める役割】 ・市民会館が日常的に訪れる場所、親しみやすい場所となってほしい。 【市に求める文化施策】 ・若い人を取り込むためにも、各団体を統括(コーディネート)できる部門がほしい。 ・伝統を守りながら新しいことに取り組みたい。 ・団体の存続のためにも、若い人に古典芸能に親しみを持ってもらいたい。

3) 利用団体アンケート

市内のホール施設（市民会館、文化センター、アンフォーレ、昭林公民館）を日頃から利用している団体を対象に、活動状況や現状の課題、ニーズなどを把握することを目的としたアンケートを実施しました。

①調査対象

188団体

②調査期間

令和7年8月4日～令和7年8月29日

③回収率

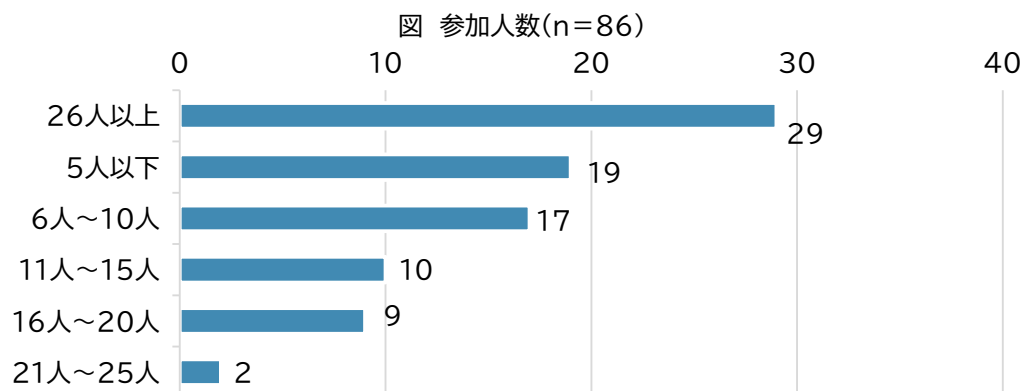
回収率47.9%(回収件数90件)

◇調査結果

①練習・稽古・創作・会議などの日常的な利用について

【参加人数】

「26人以上」で利用する団体が最も多い結果となり、一定の規模での活動が行われていることが分かりました。

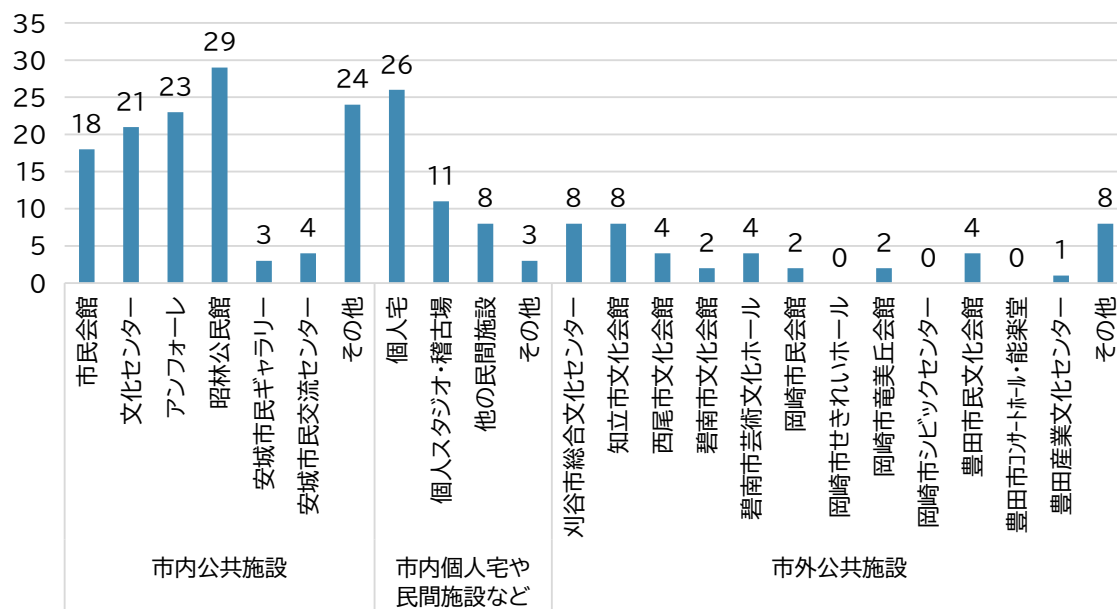


【活動場所】

活動場所として、市内公共施設で最も利用が多いのが、「昭林公民館」でした。「市民会館」は、施設の名を挙げた中では4番目に多い結果となりました。また、「その他」には、「桜井公民館」や「総合福祉センター」などの名前が挙がっています。

また、「個人宅」で活動する団体も一定数見られ、主にピアノ等の音楽教室が該当しています。さらには、市外の公共施設の利用も一定数あることがうかがえます。

図 活動場所(n=213)【複数回答可】



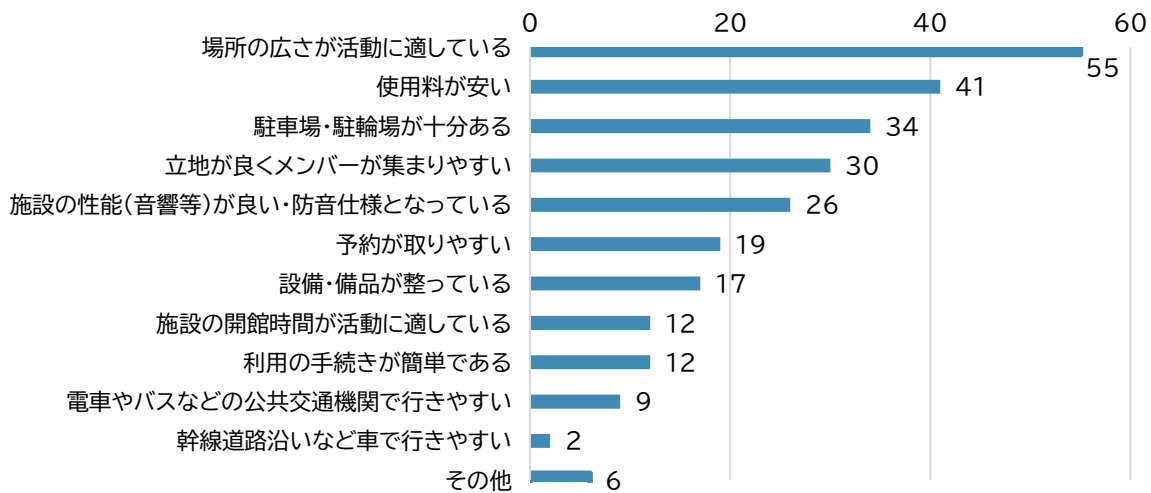
【活動場所で重視すること】

活動場所で重視することとして最も多いのが、「場所の広さが活動に適している」ということでした。これには50を超える団体が回答しており、活動内容に応じたスペースの確保が求められていることがうかがえます。

次いで多いのが、「使用料が安い」、「駐車場・駐輪場が十分ある」ということでした。活動場所には車や自転車で訪れる団体が多く、特に「65歳以上」の会員が多くいることも踏まえると、駐車スペースの有無は活動参加のしやすさに直結していることがうかがえます。

「その他」の意見として、「理想のスペックを持つピアノの有無」や「搬入のしやすさ」、「職員・スタッフの対応の良さ」、「施設周辺の治安の良さ」などが挙がっています。各団体が様々な視点で活動場所を選択していることが分かります。

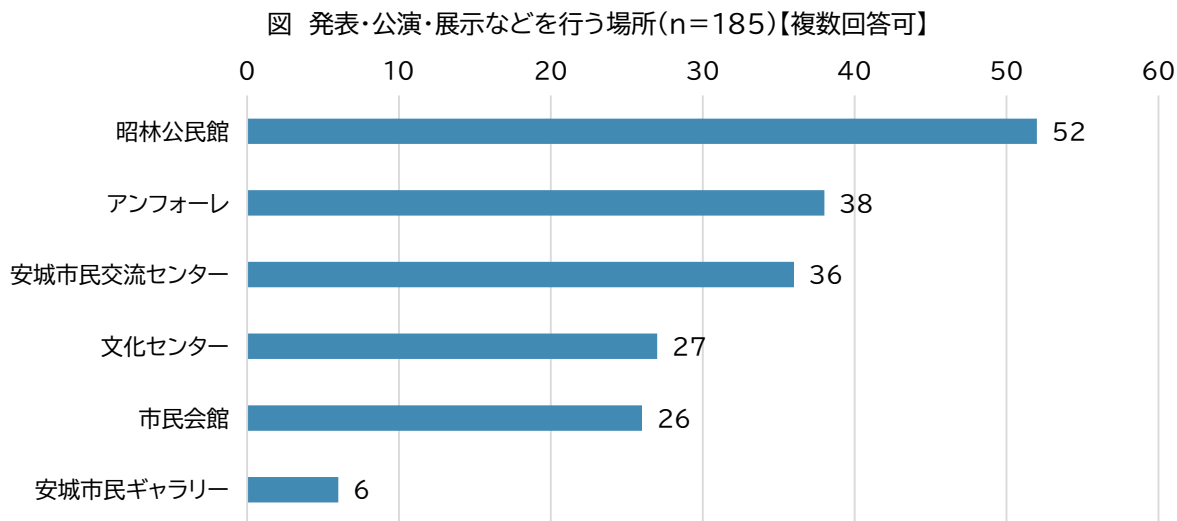
図 活動場所で重視すること(n=263)【複数回答可】



②発表・公演・展示などのイベント利用について

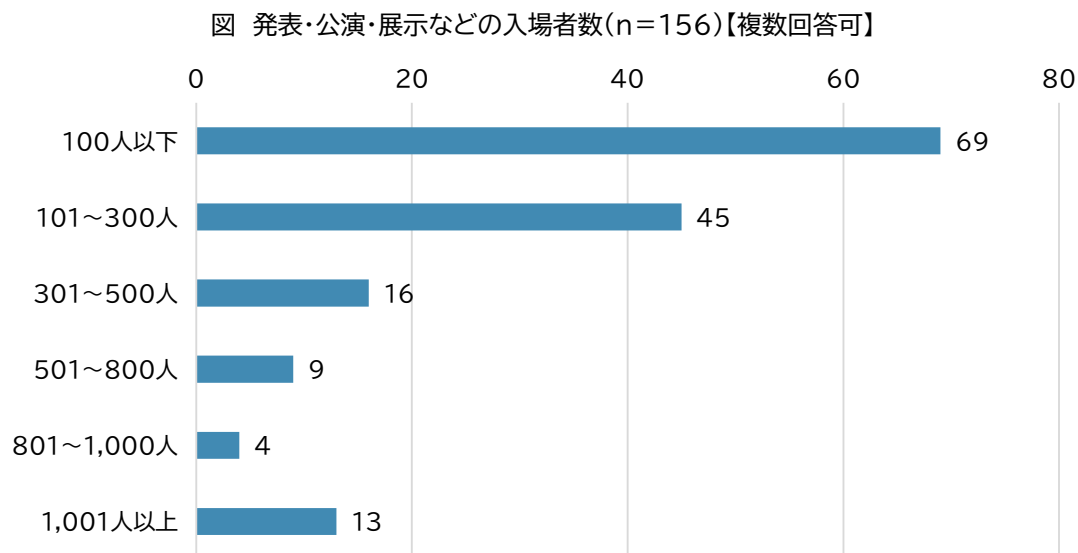
【発表・公演・展示などを行う場所について】

発表・公演・展示などを行う場所は、「昭林公民館」の「ホール」が最も多い結果となりました。「市民会館」は26団体が利用しており、そのほとんどが「ホール」の利用ですが、「ホワイエ」、「和室」、「その他会議室等」の利用もあったと回答がありました。また、「リハーサル室」や「展示室」の利用はありませんでした。



【入場者数】

各団体が開催している発表会や公演会等の入場者数については、「100人以下」の発表・公演が最も多く、比較的小規模なイベントが多い傾向がみられます。一方で、「1,001人以上」の大規模な発表・公演も一定数見られ、多くの来場者を想定した催しに対する需要も存在していることが分かります。



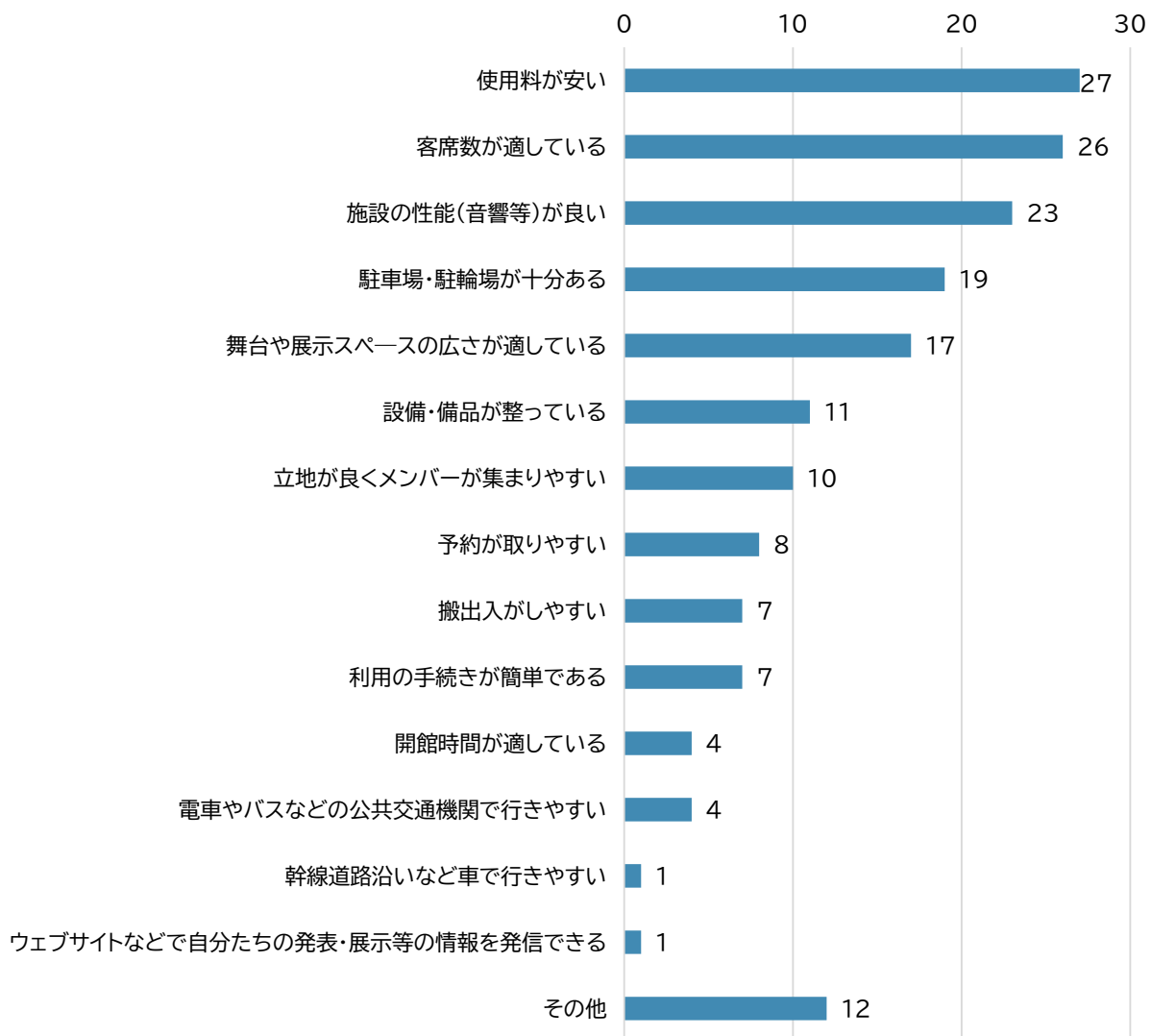
【発表・公演・展示などを行う場所で重視すること】

発表・公演・展示などを行う場所で重視することとして最も多いのが「使用料が安い」ことでした。活動場所においても同様に多くの団体が重視していたように、団体の継続的な活動には、経済的な負担の少なさが重要な要素であることがうかがえます。

「使用料が安い」とほぼ同数で、「客席数が適している」ことであり、次いで「施設の性能(音響等)が良い」ことが多いと分かります。このように、実際の活動内容や観客動員数に見合った会場の選定にも重きを置いていることが示されています。

「その他」の意見として、「舞台裏の動線」や「職員とのコミュニケーションの円滑さ」、「施設周辺の環境の良さ」を重視する等の意見が挙がっています。

図 発表・公演・展示などを行う場所で重視すること(n=177)【複数回答可】



③市民会館について

【満足度】

市民会館を利用したことがある団体のうち、現在の施設に「満足していない」と回答した団体は、「満足している」と回答した団体よりも若干多い結果となりました。

満足していない理由として最も多かったのは、「施設の性能（音響等）が良くない」という点であり、施設の機能や設備が十分でないことが、満足度を下げる主な要因となっていることがうかがえます。

次いで多かった理由は「使用料が高い」ということでした。前述したように、活動や発表の場を選ぶ際に、経済的な負担の少なさが重視されているとうかがえることから、使用料については多くの団体にとって重要な関心事であるといえます。

また一方で、「立地が悪くメンバーが集まりにくい」や「幹線道路沿いで渋滞があるなど、車で行きにくい」という意見はなく、立地に関する不満は少ないと言えます。

「その他」の意見としては、「動線が良くない、老朽化している」といった声が寄せられており、施設全体の使い勝手や老朽化への課題意識もあることが分かります。

図 満足度(n=25)

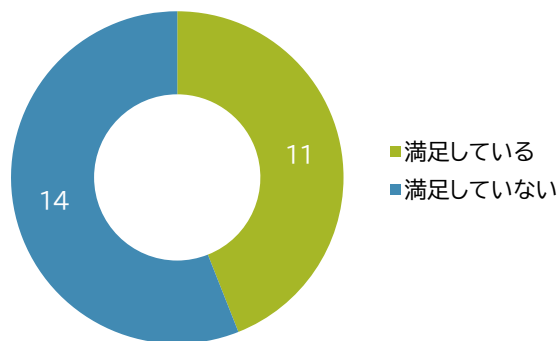
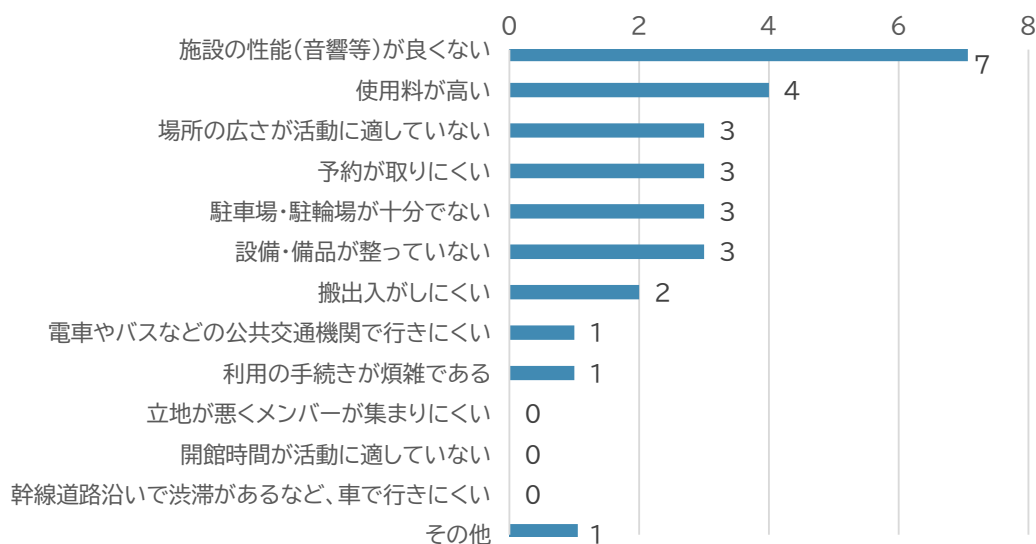


図 満足していない理由(n=28)【複数回答可】

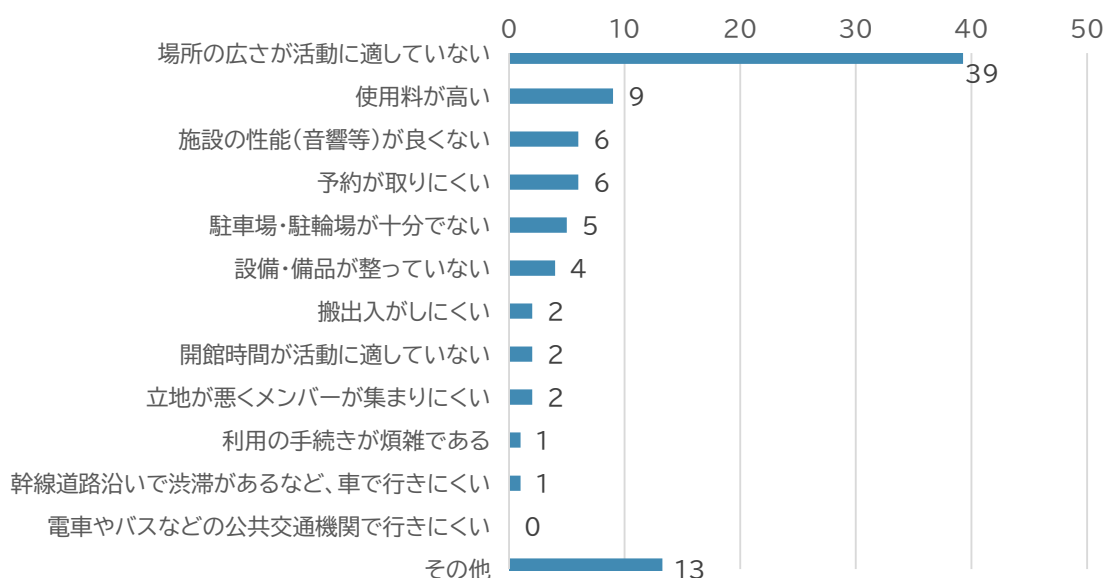


【利用しない理由】

市民会館を利用したことが「ない」理由として圧倒的に多かったのが、「場所の広さが活動に適していない」ことでした。「その他」の自由記述欄にも、「客席数が多く、現在の活動内容に対して規模が大きい」と回答した団体が複数あり、活動内容によっては市民会館の規模が大きすぎるということが明らかとなりました。

また、「電車やバスなどの公共交通機関で行きにくい」や「立地が悪くメンバーが集まりにくい」という意見が少ないことから、市民会館へのアクセスや立地に不満がある団体は少ないといえます。

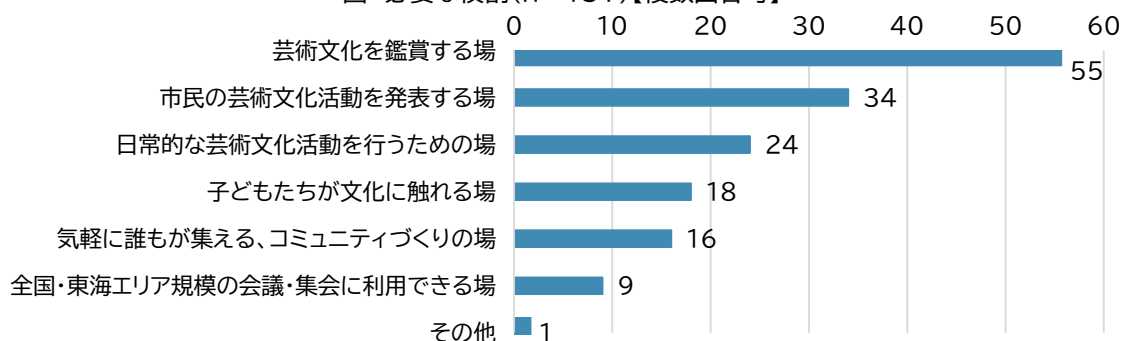
図 利用しない理由(n=90)【複数回答可】



【必要な役割・ホールタイプ】

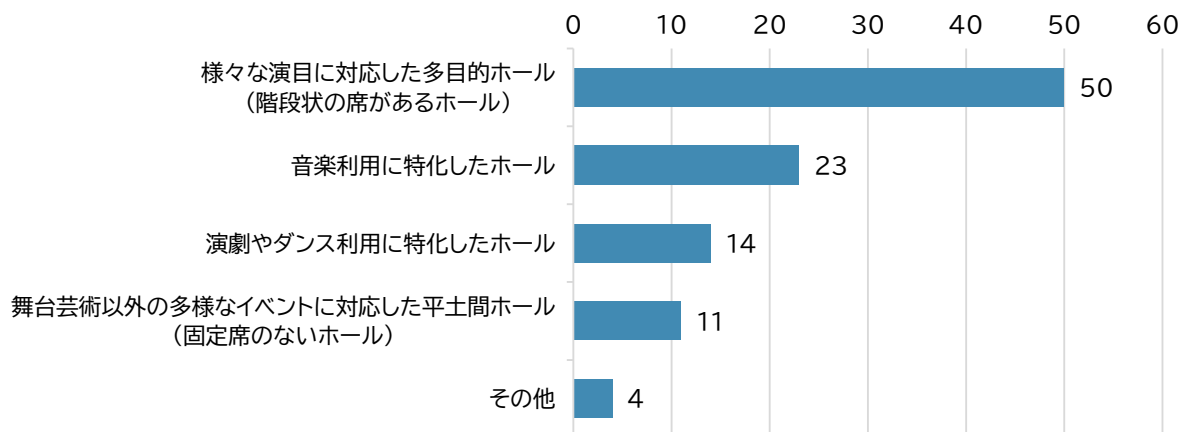
市民会館に必要な役割として最も多かったのは「芸術文化を鑑賞する場」でした。発表や活動を行う場としてだけではなく、それを鑑賞する場として市民会館が機能するべきと考えている団体が多くいるとみられます。

図 必要な役割(n=157)【複数回答可】



市民会館のホールタイプとしては、「様々な演目に対応した多目的ホール（階段状の席があるホール）」が最も多く求められていることが分かりました。一方で、音楽や演劇に特化したホールを必要とする声や、展示会や講演会を行う団体からは平土間の固定席のないホールを求める声もあり、団体ごとに用途に適したホールが求められていることが明らかになりました。

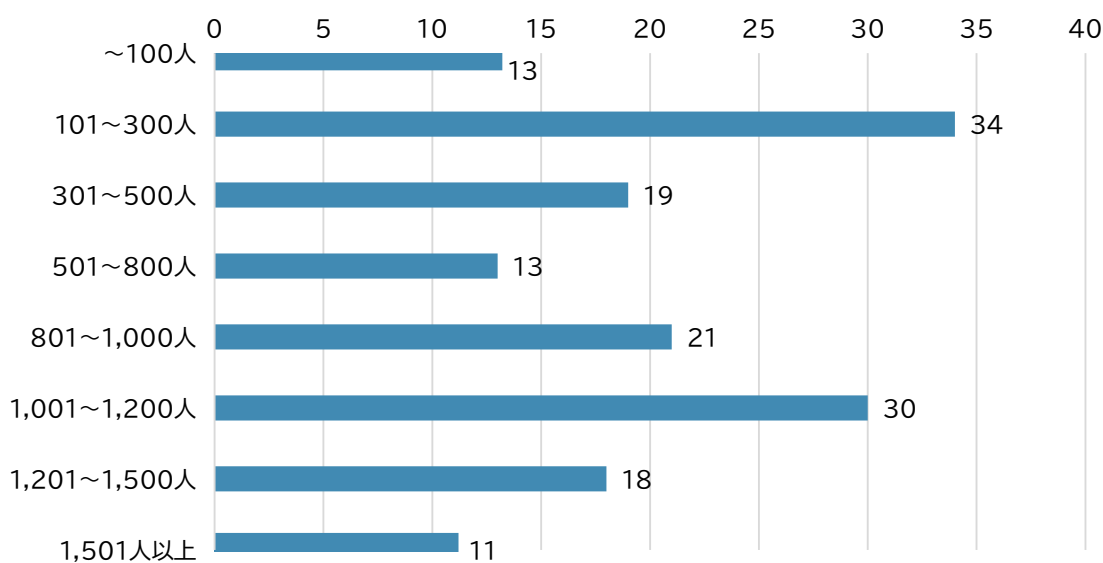
図 必要なホールタイプ(n=102)【複数回答可】



【適したホールの収容人数】

市民会館には、「1,001～1,200人」の大ホール及び「101～300人」の小ホールを併設する構成が求められている傾向がみられました。

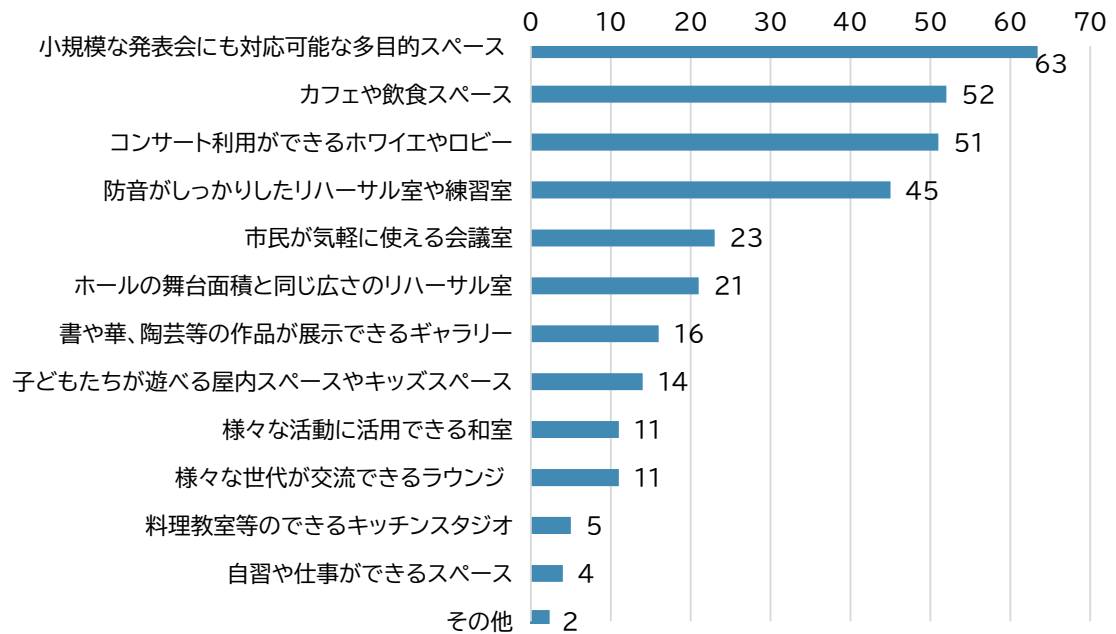
図 適した収容人数(n=159)【複数回答可】



【併設してほしい機能】

市民会館に併設してほしい機能としては、「小規模な発表会にも対応可能な多目的スペース」が最も多く挙げられました。次いで、「カフェや飲食スペース」の要望が多く、発表や活動の合間に利用できる休憩の場としての機能も重視されていることが分かります。また、「コンサート利用ができるホワイエやロビー」や「防音がしっかりしたりハーサル室や練習室」も求められていることが分かります。

図 併設してほしい機能(n=318)【複数回答可】

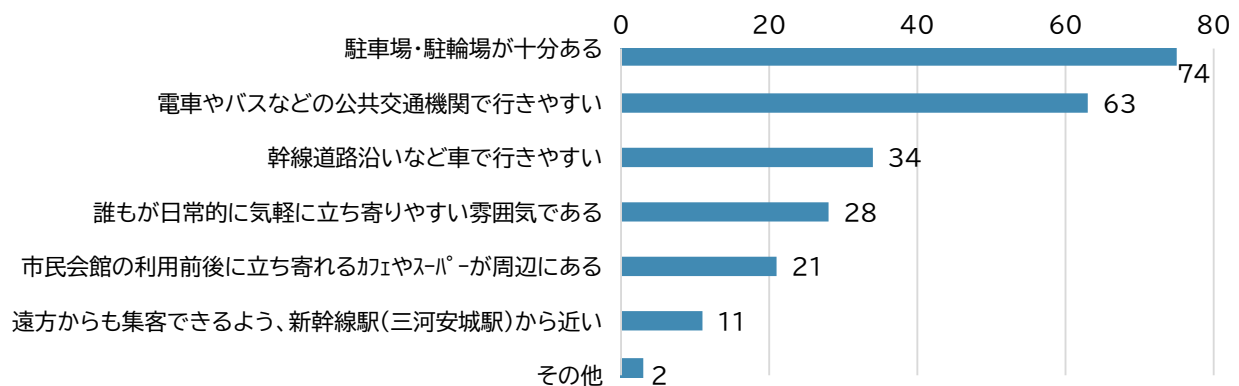


【周辺環境において重視すること】

市民会館の周辺環境においては、「駐車場・駐輪場が十分ある」ことが特に重視されていました。次いで「電車やバスなどの公共交通機関で行きやすい」ことであり、駅やバス停からのアクセスの良さも会場を選ぶ基準となっているといえます。

このように、市民会館には多様な交通手段に対応した環境整備が求められていると分かりました。

図 周辺環境において重視すること(n=233)【複数回答可】



4) プロモーター等ヒアリング

市民会館ホールの利用実態と課題を整理するとともに、市場性の観点から適切な客席数と集客見込みを把握することを目的として、公演等を企画・運営するプロモーターやプロ実演団体等4団体にヒアリング調査を実施しました。

調査期間

令和7年7月9日、8月25日～26日、9月1日

◇調査結果

◇市民会館ホールの利用有無、現状の課題等

団体ジャンル	主な意見
実演団体	・3年に1回程度のペースで市民会館を利用している。 ・客席数は1,200席だが、PA(音響操作専用席)を除くと1,166席となり少し不足する。本来は、1,300～1,400席あると採算的に丁度良い。 ・空調設備が改善されないと夏の時期は使えない。 ・圧倒的に楽屋が少ない。出演者全員が入らない場合、上演できない作品が出てくる。楽屋の広さと数、どちらも少ない印象。 ・リハーサル室が狭いため、リハーサル利用はせずにスタッフの休憩部屋として使っている。演者はロビーで声出しをしている状況。十分な広さのあるリハーサル室があると良い。 ・搬出入口がメイン出入口に面しているため、トラック3台が限界でかつ転回にも苦労する。通常11トントラック3台で移動する。 ・舞台の上手側と下手側の両方から搬出入できると良い。
プロモーターA社	・市民会館の利用は数年に1回程度で、演劇やミュージカルでの利用が中心。 ・客席数は適正であり、舞台の広さについても狭いとは思わない。
プロモーターB社	・これまで貸館での利用はほぼ無く、共催で利用する機会があった。 ・舞台の広さ自体には問題はないが、舞台上手袖がもう少し広いと良い。 ・車椅子席が6台分設置されているが、スタンディングで鑑賞する場合に視界が確保しづらい。 ・楽屋は和室より洋室の方が好ましい。
マスコミ企業	・これまでに市民会館の利用はない。 ・市民会館は選択肢として挙がってこなかったのが実情。知名度の問題かもしれない。

◇安城市の市場性、適したホール規模等

団体ジャンル	主な意見
実演団体	・これまで、安城市は「売れない地域」という印象だった。1,400席あっても空席があると意味がない。 ・需要の有無について、令和10年から名古屋市民会館が8年間使えなくなるため、今後10年先までは近隣市町の需要は多いと考える。ただし、10年限定の特殊な需要かもしれない。
プロモーターA 社	・客席数については、ラインが数段階ある。1,000席、1,500席、2,000席超えの3つがある。（見切れ席やPAの100席ほどは販売しない。） ・名古屋市以外の場合、刈谷総合文化センターや東海市芸術劇場が第一候補で、それ以外の施設はスケジュール次第。 ・客席数は1,500～1,600席まであっても需要はあると思う。
プロモーターB 社	・名古屋市を中心に探すことが多い。 ・安城市なら1,500席あれば候補には挙がる。 ・ただし、1,500席のホールでも市民利用の方が多くなると想定される。理想は2階層にして、1階を1,000席前後にし、2階席を可動壁でクローズできる構造だと市民の方も使いやすいと考える。
マスコミ企業	・基本的には名古屋市内での公演が多く、なかでも愛知県芸術劇場を利用する。抽選で外れた場合、刈谷市、東海市、豊橋市が候補に挙がる。 ・刈谷市は取り合いになるため、やり方によっては安城市を利用する流れも出てくるかもしれない。施設のブランディングが重要。他施設との差別化を図ること。 ・当然キャパが多い方が可能性は広がるが、良し悪しはある。戦略次第である。

5. 求められる市民会館の在り方

1) 各種調査の整理

対象	主な意見
現況調査	・施設(全般)…数か所の雨漏り、外壁の劣化数か所の雨漏り、外壁の劣化、授乳室や親子室など利用者ニーズに応じた諸室の未設置、駐車場の混雑 ・ホール及び関連諸室…ホールやリハーサル室の防音性能の低さ、客席の座席幅の狭さ、オーケストラピットの利用の少なさ、バリアフリーの一部未対応、エレベーターの不足、楽屋トイレの不足、和室楽屋の使いにくさ ・玄関・ホワイエ…開館前の屋内待機場所の未設置、客用洋式トイレの不足 ・空調設備の不具合、舞台設備の劣化、舞台袖の空調の騒音 ・その他…ピアノ庫のシャッターの不調と湿度管理機能の未整備、ピンスポット室の音漏れ、搬入口の道路の狭さ、展示室の部屋の狭さと柱による制約
利用団体 ヒアリング	・市民会館は市全体の中心地であり発信・育成の場であってほしい。 ・文化育成の旗振り役になってほしい。 ・様々な施設を、文化面で支援・援助できる部門が必要。文化的に盛り上がる運営方法を考え、全体を引っ張る力になってほしい。 ・いろいろなものをサポートできるコンシェルジュのような集約した窓口や、問合せ、紹介に対応してくれる機関がほしい。 ・団体の存続のためにも、若い人に古典芸能に親しみを持ってもらいたい。
利用団体 アンケート	【自由記述(一部抜粋)】 ・人口減少と高齢化が進む中、コンパクトなまちづくりを進めていかないと地域の活力を維持できなくなる。 ・市民会館と名がつく以上、一般市民の活動(発表、練習等)が気軽に行える場所であることが望ましい。 ・市民会館が市の文化芸術振興の中心施設として存在してほしい。 ・講演、コンサートで1,500人以上集められる特別な会館として、それと同時にアンフォーレのように気軽に行ける場所として市民に広く活用されるといい。 ・近隣市は、ホールを貸し出すだけでなく、ホール自体がオーケストラなどの演奏団体を運営しており、市やホールの活動として地域の音楽文化を育成している。市の音楽文化そのものが後れを取っているのは、この違いが大きい。 ・個人や小規模な団体にも開かれた利用促進が図られれば、より多くの市民が文化芸術に触れる機会につながると思う。
プロモーター ヒアリング	・名古屋市以外だと、刈谷市総合文化センターや東海市芸術劇場が候補に挙がる。 ・名古屋市を中心に探すことが多い。 ・安城市は「売れない地域」という印象だった。 ・1,400席あっても空席があると意味がない。 ・1,500席あれば候補になるが、市民利用を想定し2階席を閉鎖可能な2層構成とすると良い。 ・他施設との差別化を図ることが重要である。

2) 求められる役割

①質の高い文化芸術を「届ける」ための環境整備

【現状・課題】

- ・外壁、屋上防水、舞台設備等の老朽化
- ・客用トイレ数の不足、洋式化への未対応
- ・出演者エリアのバリアフリー未対応
- ・時代の変化に応じた舞台の広さ・設備への未対応
- ・駐車場の混雑

【方向性】

- ・施設の安全性や快適性を確保する。
- ・来館者及び出演者双方にとって安全かつ利用しやすい環境の整備を図る。
- ・質の高い公演や文化事業を安定的に実施できる劇場空間・施設環境の確保を目指す。

②文化を「創る・育てる」ための環境整備

【現状・課題】

- ・防音性能を備えた練習室・リハーサル室の不足
- ・文化育成の旗振り役の確保

【方向性】

- ・市民や文化団体が日常的に活動・創造できる環境を充実させる。
- ・興行利用から市民利用まで幅広く対応できる施設構成や客席数の在り方を検討する。
- ・市民の文化活動の中心施設として、人材育成や活動支援の機能について検討する。

③文化を「つなぐ・ひらく」機能の充実

【現状・課題】

- ・市内の他ホールや、地域の多様な主体との連携
- ・ホール規模・機能の整理による特化
- ・情報発信機能や充実した共用スペースの整備
- ・誰でも文化に触れられる機会づくり

【方向性】

- ・市内の文化施設との連携や役割分担を整理し、地域全体で文化を支える仕組みづくりを進める。
- ・情報発信機能や交流スペースの充実を図り、文化活動の可視化と参加機会の拡大を図る。
- ・多様な人々が文化芸術に触れ、関わるができる開かれた拠点づくりを目指す。

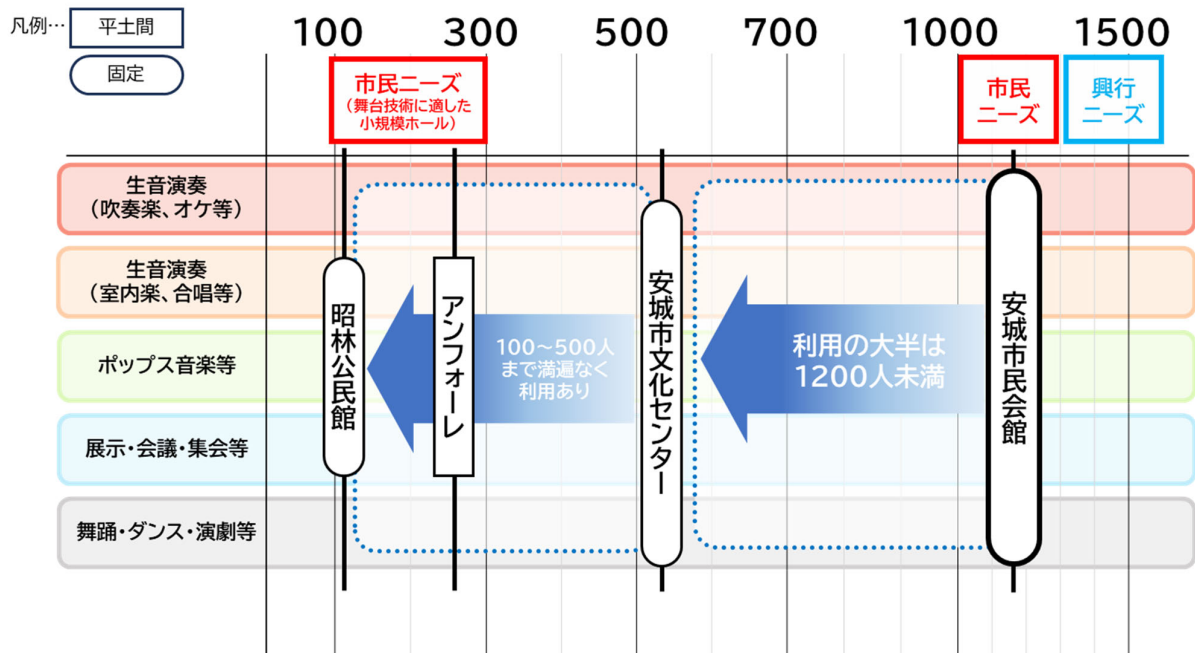
3) 求められるホール規模と機能

①市内設置状況及び市民ニーズ

調査結果を踏まえ、市内施設の役割分担を下図のとおり整理しました。市民ニーズとしては、現在と同等の「1,000～1,200席」とあわせて、文化団体の発表利用に適した「100～300席」を求める意見が最も多く寄せられました。

市内には、アンフォーレと昭林公民館に300席以下の小ホールがありますが、いずれも多目的ホールであり、音楽団体からは「生音での音響性能が不十分」、演劇団体からは「舞台袖がない」「演出設備が整っていない」といった課題が指摘されています。

また、文化センターは、500席規模の中規模ホールとして文化団体の発表などに活用されていますが、「客席数に対して舞台サイズが小さい」「楽屋が少ない」「舞台袖が狭い」「生音の響きがあまりよくない」「車椅子利用者が楽屋を利用するのに不便」などの問題点が挙げられており、舞台芸術の公演には十分に対応できていない状況です。



②市民会館における客席数の方針

本市における市民会館のホール規模については、利用実態や市民ニーズを踏まえると、大ホールは1,000～1,200席程度が適切と考えられます。この規模であれば、市民の文化活動や発表の場として十分な機能を果たすとともに、一定の興行利用にも対応可能です。

また、文化団体の発表会や小規模イベントに対応できる100～300席程度の小ホールの併設を求める声があったため、今後、他の文化施設との役割分担や相互補完的な運営の観点から検討を深める必要があります。

③その他必要な機能

利用団体へのヒアリング及びアンケートによる調査の結果、市民会館に求められるホール以外の施設機能について、整理しました。

団体ジャンル	主な意見
音楽団体	・防音で天井が高く、楽器の搬入ができるリハーサル室 ・舞台と同じ大きさのリハーサル室 ・バンドや吹奏楽の練習ができる練習室 ・日常的な練習場所や居場所となる部屋・スペース
演劇団体	・子どもも気軽に利用できる防音スタジオ ・立ち稽古ができるリハーサル室 ・畳のある部屋
その他団体	・展示会ができる市民ギャラリー

4) 管理運営の考え方

①管理運営主体について

公の施設の運営形態には、市が自ら管理を担う「直営方式」と、一定の条件のもとで事業者を選定して管理を委ねる「指定管理方式」があります。「指定管理方式」では、民間企業をはじめ、財団法人やNPO法人など、多様な主体による運営が想定されます。

また、先述した求められる役割を具体化するためには、専門的な知識や経験を有する人材を確保するとともに、その能力を活かした適切な人員配置を行い、市民が主体的に活動に参画できる運営体制を構築することが重要となります。

表 直営と指定管理の主な特徴

	特徴
直営	・文化政策や関連部署との連動性が高い。 ・地域の実情を踏まえた運営や事業、市民協働が可能。 ・人事異動によりノウハウの継承が難しく、専門的人材の継続的確保が課題。 ・予算の確保や運用面での縛りが多く、効率性や収益性のインセンティブが働きにくい。
指定管理	・専門的人材・ノウハウを有し、質の高いサービスや事業の提供が期待できる。 ・予算の柔軟な運用や効率的な運営が可能。 ・他自治体と同じ事業の提供が期待できる。 ・法人形態(組織目的)によっては、非効率・不採算な事業には消極的になる。 ・指定期間による人材・事業の不安定化、終了・交代に伴う切替の混乱が生じる。

②運営の収支構造について

公立文化施設における一般的な収支の仕組みは、次のように整理されます。施設運営に要する総支出額から、施設貸館料金や自主事業による入場料等の収入を差し引いた額が、指定管理料(直営の場合は実質的な市の負担額)となります。

表 収支構造イメージ

収入	指定管理料 (直営の場合は市の実質負担額)				施設貸館 料金収入	自主事業入 場料収入
	管理運営に係る総経費から施設貸館料金収入及び 自主事業入場料収入を差し引いた金額				施設・備品の 貸出料金	チケット代、 参加料等
支出	人件費	維持管理費				事業費
		管理費	光熱費	事務費	修繕費	
内訳	職員給与など	設備点検、 清掃、警備 などの費用	電気、水道、 ガスなどの 使用料	通信費、 消耗品費 など	小規模 修繕の 費用	自主事業経費

6. 整備手法

1) 整備手法（改修、建替え）の考え方

市民会館等の整備手法として、改修と建替えが考えられます。主たる機能であるホールの規模を検討するとともに、管理運営面や市の財政状況、整備時期等を踏まえ、総合的に検討する必要があります。

(1) 改修(大規模改修・長寿命化)

利点	・ 現施設と同じ場所での機能存続が可能となる。 ・ 基本的に建替えと比べて工事費用が安い。
欠点	・ 構造的な制約を受けるため機能更新の自由度が低い。 ・ 数十年後に、建替えが必要になる。 ・ 工事内容によっては休館が必要である。

(2) 建替え

利点	・ ハード・ソフトともに最新基準への対応が可能となる。 ・ 当面、機能更新をする必要がなくなる。 ・ 立地や建替えの手法によっては市民会館の休館が不要である。
欠点	・ 基本的に改修と比べて工事費用が高い。

(参考) 整備手法の事例

建替えの場合には、長野市芸術館や秩父宮記念市民会館のように、他の公共施設と一体的に整備する「複合化」が採用されている事例があります。



また、愛知県芸術文化センターでは既存施設を活用しつつ、運営権を民間事業者に付与するコンセッション方式が導入されています。さらに、東大阪市文化創造館では、設計・建設から維持管理・運営までを民間に一体的に委ねるPFI手法が採用されています。これらのように、民間活力を導入している事例があります。

2) 整備手法の比較

①整備工程の比較

想定工事内容、工事期間、休館期間を比較整理します。

現敷地で建替えを行う場合は、工事期間・休館期間が最も長くなることが想定され、移転建替えの場合は、条件次第で休館の必要がなくなります。なお、工事内容により、想定工事期間や休館期間は変わる可能性があります。

表 整備工程の比較

項目	大規模改修	建替え	
		現敷地建替え	移転建替え
使用可能年数	37年程度 (耐用年数目標の90年まで使用した場合)	90年 (耐用年数の目標)	
主な想定工事内容	設備内装改修工事	解体工事 ↓ 新設工事	新設工事 ↓ 解体工事
想定工事期間	約2年	約5年	約3年
休館期間			なし

②整備内容

建替えを行うことで、ハード面・ソフト面の双方において市民ニーズに柔軟に対応することが可能となります。一方で、大規模改修では、市民ニーズや機能更新を行うには、構造上の理由などから、解消できない課題が残ることがあります。

表 整備内容の比較

項目		大規模改修	建替え
基礎機能	ホール (客席数、客席の配置等)	現在の水準に合わせた椅子へ更新することで、客席数が減少する可能性がある。	現状の客席数を確保できる。 客席を2層化することで、ニーズに対応した席数を確保できる。
	ホール(設備等)	生音に適したホールとするためには、構造上、限界がある。	空間の形状を工夫することで、生音に適したホールとすることができる。
	バリアフリー	構造上の理由から解消できない段差が残る。	現行のバリアフリー基準に適合した設計が可能となる。
	トイレ	ホール客用トイレ数の不足が解消されない可能性がある。	十分な質と量のホール客用トイレを確保できる。
	動線	一般利用者(会議棟利用者)と演者の動線が交錯するなど構造上解消できない課題がある。	一般利用者、演者、管理者等の様々な動線を分離して機能的な計画ができる。
付帯機能 (小ホール、活動諸室等)		大幅な配置変更は困難であり、付帯機能の追加には制約がある。	必要な付帯機能を新たに整備でき、多目的利用が可能な施設へと機能拡張することができる。

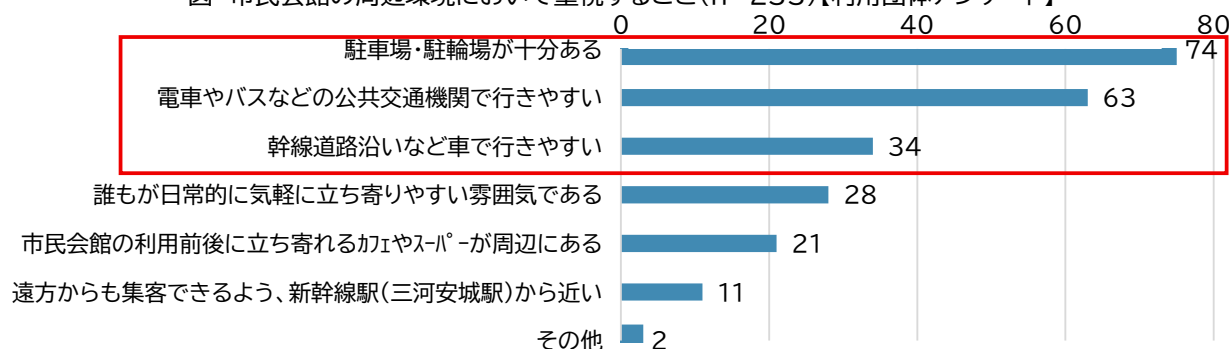
7. 施設立地の特性

市民会館の役割や機能を踏まえ、利用者の視点から市民会館の立地の特性を整理します。

市民会館は市内最大規模のホールを保有する施設として、幅広く、市民が利用する施設であり、市内どこからも訪れやすい立地である必要があります。

利用団体アンケート調査の結果では、他の公共施設や商業施設といった周辺施設との近接性より、車や公共交通機関でのアクセス利便性が重視されていることが分かります。特に、駐車場・駐輪場を十分に確保することが求められています。

図 市民会館の周辺環境において重視すること(n=233)【利用団体アンケート】



アクセス利便性が重要

	ニーズ	条件
立地	鉄道や車で行きやすい	鉄道駅から近い、幹線道路に接続している
敷地	駐車場や駐輪場の必要区画数を確保できる	一定規模のまとまった広さが取れる

なお、市民会館に求められる役割や機能によって、市民会館の望ましい立地の考え方は異なります。

プロモーター等ヒアリングや他自治体におけるホールを有する施設の運営実績を踏まえると、駅前立地する施設は、興行利用が多い傾向にあることから、鉄道駅に近接して整備することで、興行需要を一定程度見込むことが可能であると考えられます。

現状と課題を整理し、利用者ニーズが明らかとなったため、今後市民の意見を踏まえて施設の方向性を定める必要があります。